

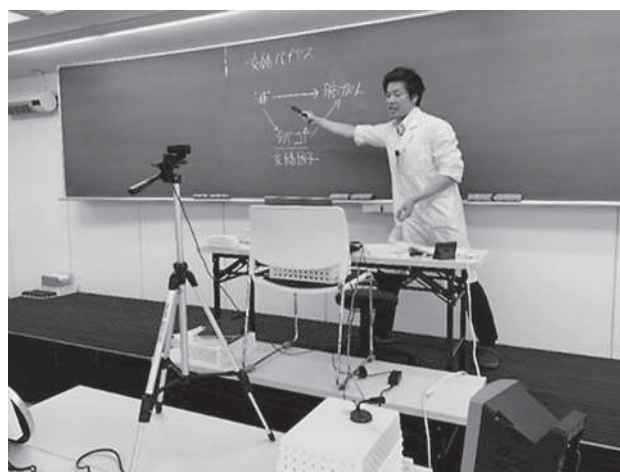
ZOOMで講義をライブ配信

集合型講義も併用して提供

薬剤師国家試験対策予備校の薬学ゼミナール(薬ゼミ)は、5月から来年度の第106回薬剤師国家試験合格を目指す学生に全日制コースを開講しているが、緊急事態宣言を受け、従来の集合型講義に加えてウェブ会議システム「Zoom」を活用したライブ配信講義を展開している。7月からは全国各地の15教室で集合型講義を再開しており、自宅近くに薬ゼミの教室がない学生にも安心・安全な環境で勉強してもらうために、教室での集合型講義とライブ配信講義を併用して提供している。

薬学ゼミナール

薬ゼミは開学以来、教室での集合型による講義を展開し、毎年国家試験の全国既卒合格者のうち、およそ85%に当たる学生を薬剤師として輩出している。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で学生が教室に通って受講する集合型講義の実施が難しくなり、学生に対して安心・安全



ネット環境があれば、どこでも受けられるようにした。集合型講義と似た雰囲気で行っているのが特徴だ。

ライブ配信では、講師とiPadの画面が映し出され、講義をしながら必要に応じて板書も行う。同時に新しい国家試験出題基準に対応した参考書「青本」のページが画面に映し出され、iPad上の大事なポイントに線を引き、メモを取るところが視覚的に確認できる。講義の中でメモの取り方、要点のまとめ方など学習の仕方も伝えながら、学生を飽きさせない工夫を凝らした。

講師から学生への一方通行の発信ではなく、学生とのコミュニケーションによる双方向であるのも特徴だ。参加している学生は学籍番号で画面上に表示され、出欠も確認できる。講義中に生じた質問も休憩時間に直接、あるいはメールを用いてできるようになってお

り、1人の疑問を受講者全員で共有し、解決していく。

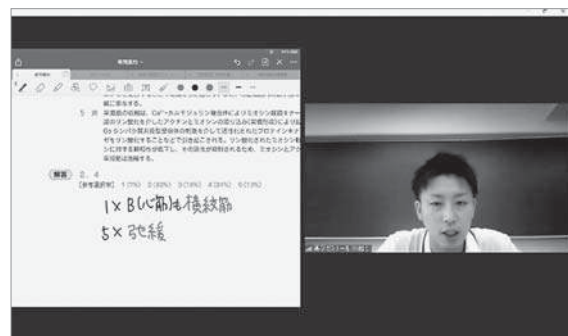
講師の説明が理解できれば「いいね!」ボタンが押される。集合型講義の臨場感に近づけつつ、講義の見せ方のバリエーションを広げている。

通信障害が発生した場合にも事前にバックアップ動画を用意して対応を

行っている。学生1人当たり2人の講師をアドバ

イザーとして設定し、Zoomを通じて個別面談も実施するなど、学生への万全のフォロー体制も確立している。

ライブ配信を始める上で強く意識したのは、薬ゼミが長年培ってきた集合型講義と同等もしくはそれ以上の質を確保でき



「コロナ禍の中で、こういった手法で講義を展開

るかという点だ。下野宗隆教務部長は、「コロナ禍の中で、どういった手法で講義を展開

と判断した」と話す。安心できる学習環境を提供していくためには、ライブ配信が最も良い手法と判断した」と話す。

検証重ね学習不安解消へ

ライブ配信講義は初めての試みであり、手探りでの準備が進む中、方針決定からわずか1ヵ月程度で開講となった。集合型講義で提供できた価値を届けられるか不安も残る中で、1500人の学生が受講。アンケート調査でも、集合型講義とほぼ変わらない満足度が得られる結果が示された。

ライブ配信後に受講を求めた学生は1人も出ていないという。

iPadを用いた講義は1年前から導入してきたが、コロナ禍でさらなる可能性を見出し、講義のオプションの一つとして確立した。

今年度は、集合型講義とライブ配信を併用して展開していく予定だ。下野氏は、「自宅の近くに

師から多くの創意工夫されたアイデアが寄せられており、日々進化したライブ配信講義を学生に提供している」と話す。

大学からも薬ゼミのライブ配信講義に対する高い関心が寄せられており、「培った手法や事例を発信できるようにしていきたい」と、外部との協業も進めていきたい考えを示す。

きたかを確認するためのテストの運営方法を考えたい。ライブ配信の講義についても、工夫やアイデアでより良い手法へ進化させるため、ベテランから若手まで、講

きたかを確認するためのテストの運営方法を考えたい。ライブ配信の講義についても、工夫やアイデアでより良い手法へ進化させるため、ベテランから若手まで、講